



「フムフム」は
アイヌ語のあいづち

ふだんはニックネーム

本名 簡単に教えない

胆振の白老町にあり、アイヌ文化の拠点となる「民族共生象徴空間（ウポポイ）」がオープンして3年あまり。9月には、来場者の合計が100万人をこえました。ここではユニークな取り組みをたくさんしています。例えば、外国人もふくめたスタッフがアイヌ語のニックネームを持っているんですよ。

アイヌ語の名前にはいくつかの決まりがあります。今から100年以上前、明治のころは生まれてからすぐには名前を付けず、数年間は単に「赤ちゃん」などと呼びます。5歳くらいになると、親の願いをこめたり、その子の特徴や性格を表したりした名前を付けます。

十勝に「小さい口を取る」という名前の男性がいました。小さい口とは「短い言葉」の例えのようです。頭の良い人で、少し説明を聞けば、あっという間に理解したので、この名前になったそうです。とても良い

名前ですね。しかし、人と同じ名前を使えない決まりもあったので、いくら良くても、その名前をもらって付けることはできませんでした。

こうして付けられた名前は大切なので、簡単には人に教えません。ふだんはポンレ（小さい名前）と呼ばれるニックネームを使います。

中国や日本でも、昔は成長すると名前を変えることがありました。大人は、本当の名前の代わりに「あざな」と呼ばれる別名を使う習慣もありました。人と同じ名前を使わないルールは、中国にもあります。なぜかという、名前は人の運命と結びついていると考えられてきたからなのです。

ウポポイでは、アイヌ語をどんどん使っていこうとしています。そこで、アイヌ民族だけでなく、和民族もポンレを使っています。ウポポイに行ったらスタッフにぜひポンレを聞いてみて下さいね。

